

平成21年4月17日現在

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2006～2009

課題番号：18202017

研究課題名（和文）中世東アジアにおける技術の交流と移転—モデル・人・技術

研究課題名（英文）The Interaction and Transfer of Technology in Medieval East Asia

研究代表者

小野 正敏（ONO MASATOSHI）

国立歴史民俗博物館・研究部・教授

研究者番号：00185646

研究分野：考古学

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：交流史、東アジア、技術、流通、陶磁器、石製品

### 1. 研究計画の概要

モノがもつモデルとコピーの属性や彼らの生産技術の比較、技術移転や技術者集団の移住などに焦点をあてて、東アジアのなかで日本の位置づけを考える。

この地域で最も広域的に交流したのが、中国や朝鮮の陶磁器、銅銭をはじめとする金属器、石製品であり、モノとしての受容とそれをモデルとした模倣や技術移植があった。これらは、中世には日常的な品々であり、その生産技術であることが特徴である。従ってこうした品々や技術の移転は、地味ではあるが受容した社会の基盤から地域を変化させたと考えられる。

具体的な生産技術とモデル・コピーの比較、さらには都市や寺院における職人や技術集積、外来技術の受容などについて、考古資料を軸にして検証し、その様相について各技術系譜を超えた時代的様相や革新の画期として関連づけて考証する。

### 2. 研究の進捗状況

本プロジェクトでは、地域、遺跡を超えて普遍的なモノ資料を対象に技術と流通の相互の視点から調査を行ってきた。そのひとつが石製品に関するもので、伊豆半島と箱根火山に由来する安山岩製品について、岩石研究者の協力を得て原産地の特定をした。また、その生産を把握した戦国期小田原城北条氏に編成された石工棟梁青木家関連の遺跡発掘による石塔、石臼などから技術復元、モデル化をし、東国における技術系譜や製品の流通を体系的にまとめる成果を出した。このオ

リジナルな成果をもとに、中世日本列島で、技術と流通の相互関連を比較するため、若狭高浜町の日引石製石塔の西日本一帯への流通問題など、既報告の例を検討した。石材比較では、肉眼観察に加え、ハンディーな帯磁計を併用して客観化する方法を実施、その有用性を確認した。

外来技術に関しては、戦国期から近世にかけての日本の外来技術受容の拠点となったキリシタン大名の本拠大分県豊後府内町と長崎県長崎の発掘成果から得られた問題を海外資料と比較することで成果をあげた。

特に、豊後府内では地元で生産されたキリシタン遺物の鉛製メダイが多数確認されており、その形態や型式、材料の鉛同位体比分析などを、スペイン・バルセロナのカタルーニャ美術館所蔵品について比較調査した。その結果、16～17世紀のメダイの特徴と豊後府内産のメダイの特徴が共通し、また自然科学的素材分析でも日本戦国末期の遺跡出土品からヨーロッパ搬入品を抽出できる可能性がまとまりつつある。

中世都市・村と職人・生産技術に関しては、各地の城下町や港湾都市等の生産関連遺物や遺構を現地調査し、中世独特の生産のあり方を認めた。また文献からも職人編成や技術集積の場としての寺院の位置づけを検証し、20年度にはシンポジウムも開催した。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

1年次、2年次と研究を進める中で、多岐にわたる問題点から、具体的に4年間でプロ

ジェクトとしてまとめ得る具体的テーマを  
絞り、当初の構成を修正しつつ進めてきた。

その結果、申請時の構想からは若干の修正  
があったものの、設定した主要なテーマにつ  
いてはおおむね計画通りに進行している。

#### 4. 今後の研究の推進方策

これまで3年間の調査では、3～4のブラ  
ンチを組織して専門的なテーマの研究推進  
を進める一方で、可能な限りプロジェクト全  
員の調査参加による問題の共有や学際的な  
視点からの新たな展開を目指してきた。これ  
には長所短所がある。21年度は総括する年  
度であり、ブランチ毎の調査研究の徹底とそ  
のまとめを主軸に、各ブランチを超えた時代  
的様相や技術・流通の革新などの関連という  
全体視点でまとめる方向で進めることとし  
た。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に  
は下線)

[雑誌論文] (計 2件)

①小野正敏、「さまざまな『伝世』そして修  
復」、『貿易陶磁研究』、査読無し、28号、  
pp. 1—11、2008

②村木二郎、「奈良盆地における一石五輪塔  
と背光五輪塔」、『日引』、査読無し、9号、  
pp. 27—36、2007

[学会発表] (計 3件)

①佐伯弘治、「16世紀における東アジアの  
変容と文物の交流」、大阪市立大学シンポ「往  
来する都市文化」、2009年3月17日、  
大阪市立大学

②中島圭一、「15世紀生産革命論序説」、歴  
史学研究会中世史部会例会、2007年12  
月15日、明治大学

③小野正敏、「日本における新安船出土陶磁  
器の用途と意味」、国際シンポ「新安沈没船  
と14世紀東アジア海域交流」、2006年  
11月17—19日、韓国木浦市国立海洋遺  
物展示館、

[図書] (計 1件)

①金沢陽ほか、「陶磁の東西交流」、出光美術  
館、2008年、63頁、

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]